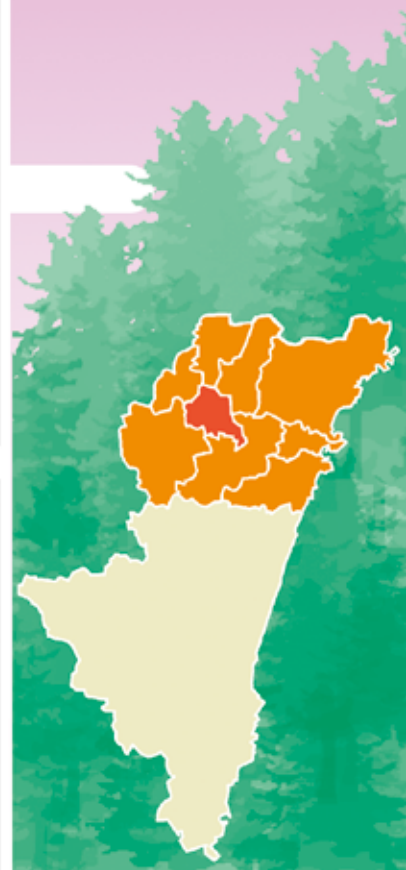
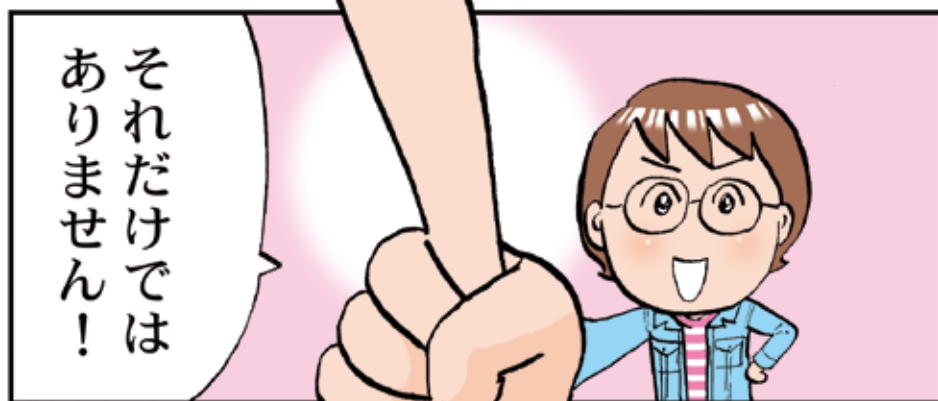
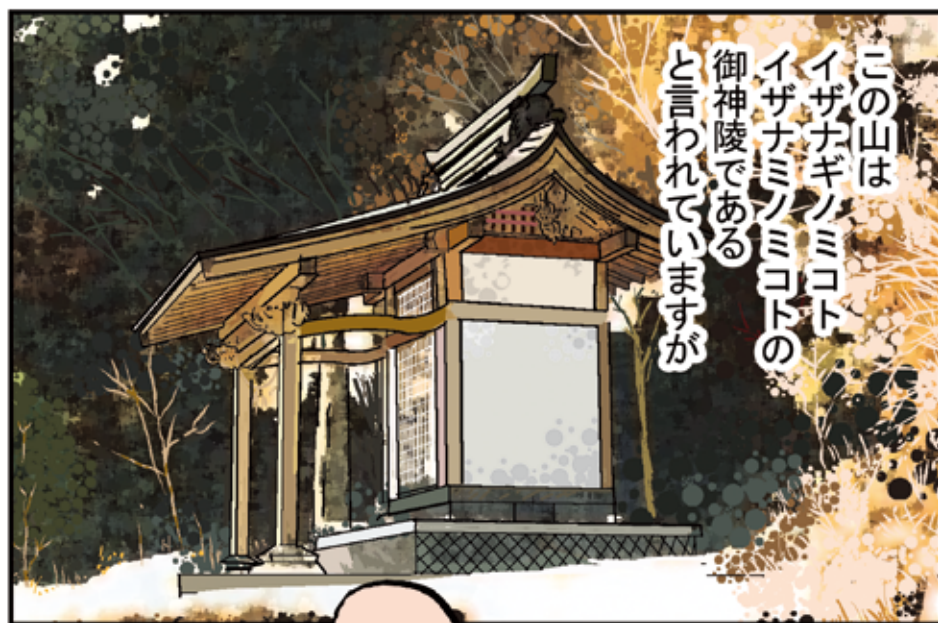


諸塚村

諸塚山の伝説



なんとうこには
高天原時代の多くの神さまが
祀つてあるのです！



天之御中主命、国常立命、国狭槌命

豊斟淳命、泥土煮命、沙土煮命

大戸道命、大戸辺命、面足命、惶根命

伊弉諾命、伊弉冊命、大山祇命

品陀和氣命、少彦名命、大日靈貴命

建速素盞鳴命、大鷦鷯命、天太玉命

息長足姫命、事代主命、天明玉命

天神魂命、天饒速日命、天表春命

天下奉命、淀姫命

※神々の名前の漢字と読みは諸塚村史から引用しました。
最後の三柱の神様の読みだけ村史にありませんので
一般的な読み名にしてあります。

高天原とは
神々が住んでいる国

いわゆる
天上界のこと
ですね



日本中に
高天原の候補地があり
それぞれいろんな神さまを
祀っていますが

こゝ諸塚神社のように
高天原時代の神さまが
これほどたくさん
祀つてあるのは
他に例がないそうです

他にあまり類を見ないこととして
こんなことも…

高千穂神社に
所蔵されている
「神名帳」をひもといて
みましょう



これは
原本とは
ちがいますが

神名帳は
神さまの名前が書いてある
帳簿ですが
延宝2年(1674)の
神名帳に諸塚山の記載が
あります

これには
神名として載っているのは
「諸塚大白山」だけで
「社」の記載がありません

つまり
延宝2年当時は社がなく
諸塚山そのものが神だという
認識だったようです

なんて
スケールの大きな
神！





「山そのものが神」という
考え方は

自然を怖れ
自然を大切に作る心の
表れです

この心が
古代日本の発展と
繁栄を支えていったのでは
ないか――



山は薪という
エネルギーの
供給地であり
食料供給地ですから

そこを大切にし
汚さず怖れる心が
人々の暮らしを
豊かにし続けたのだと
思います



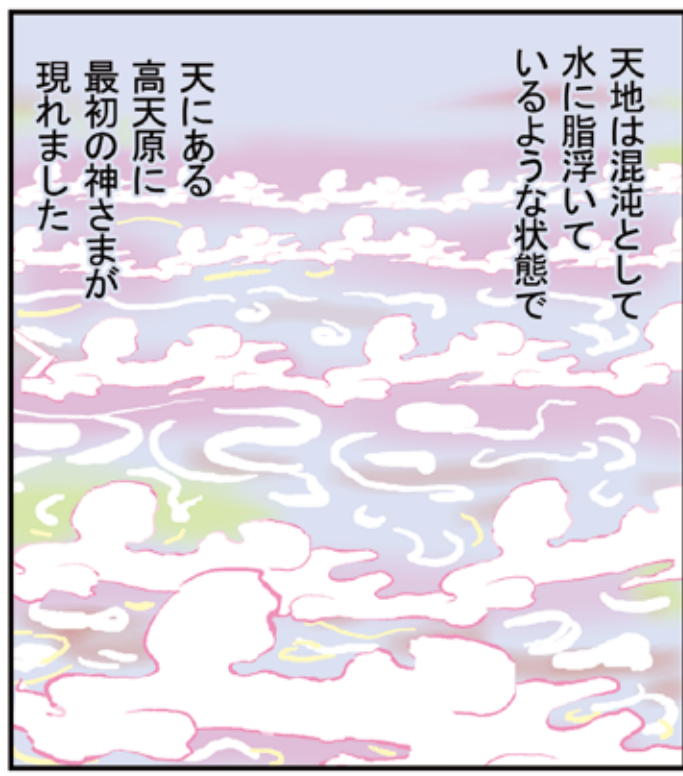
さて――
古代日本のことを綴った
『古事記』によると

世界は

天地初癸

混沌とした状態から
世界が形成される

というところから始まります

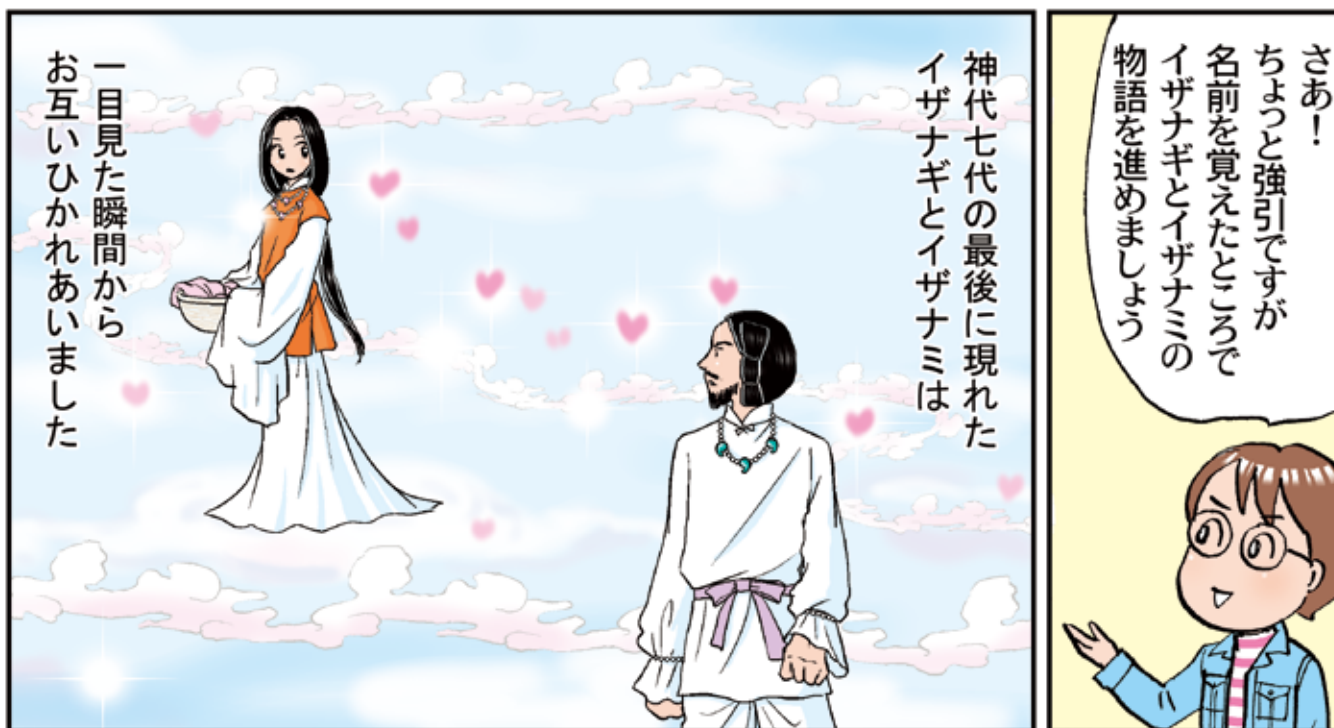
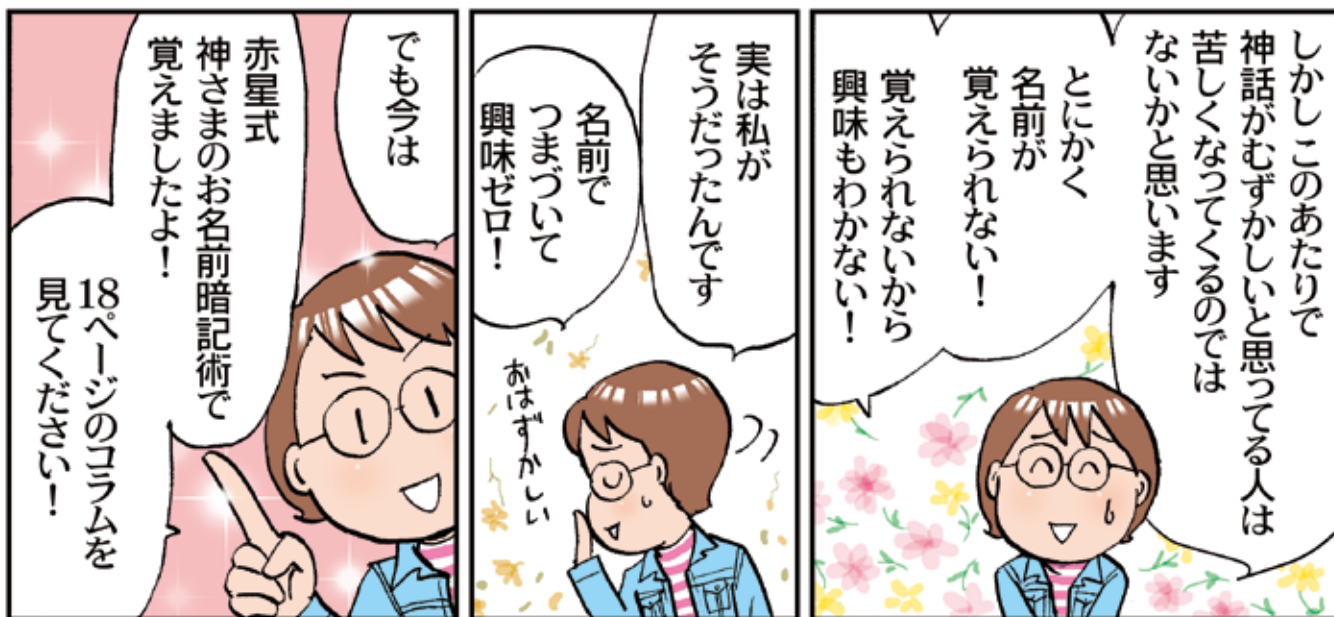


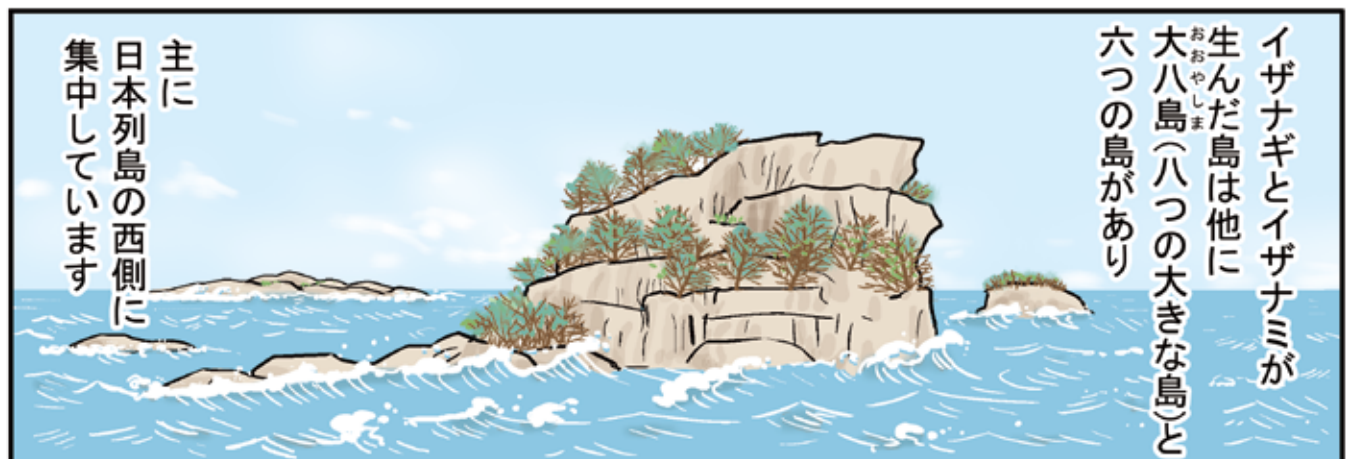
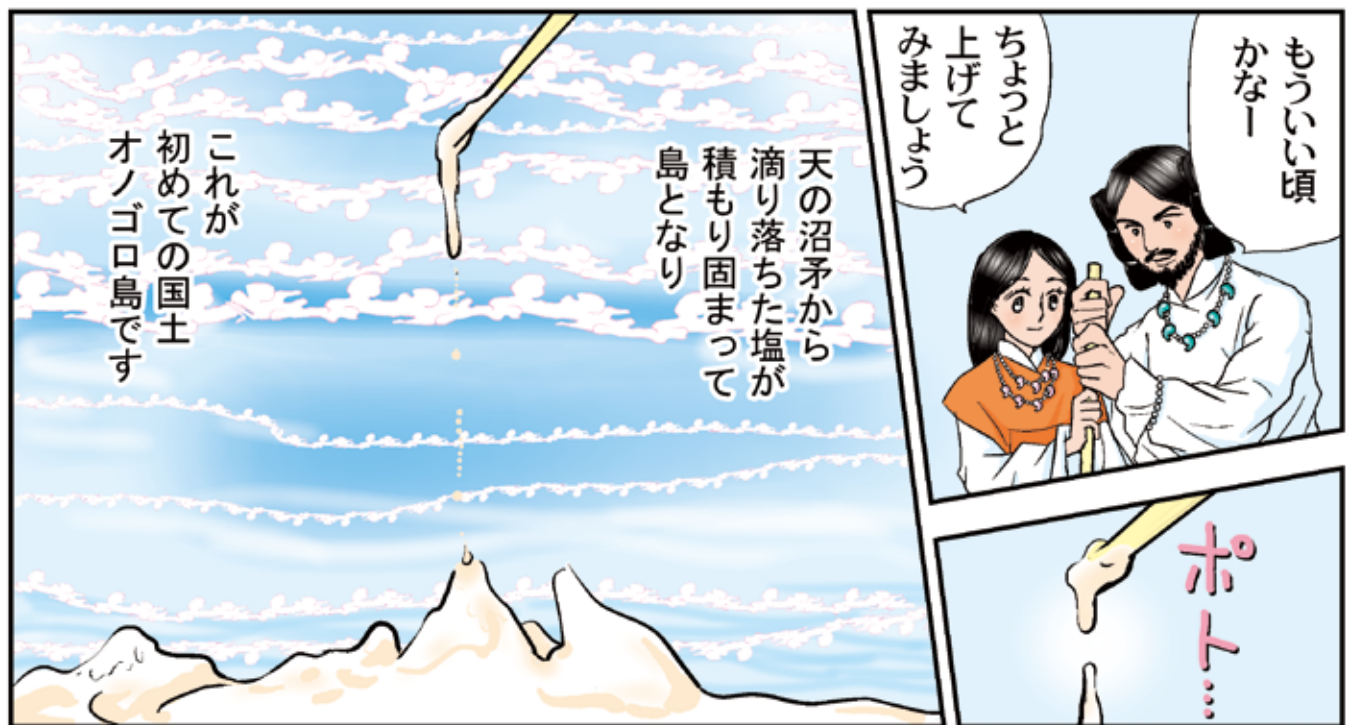
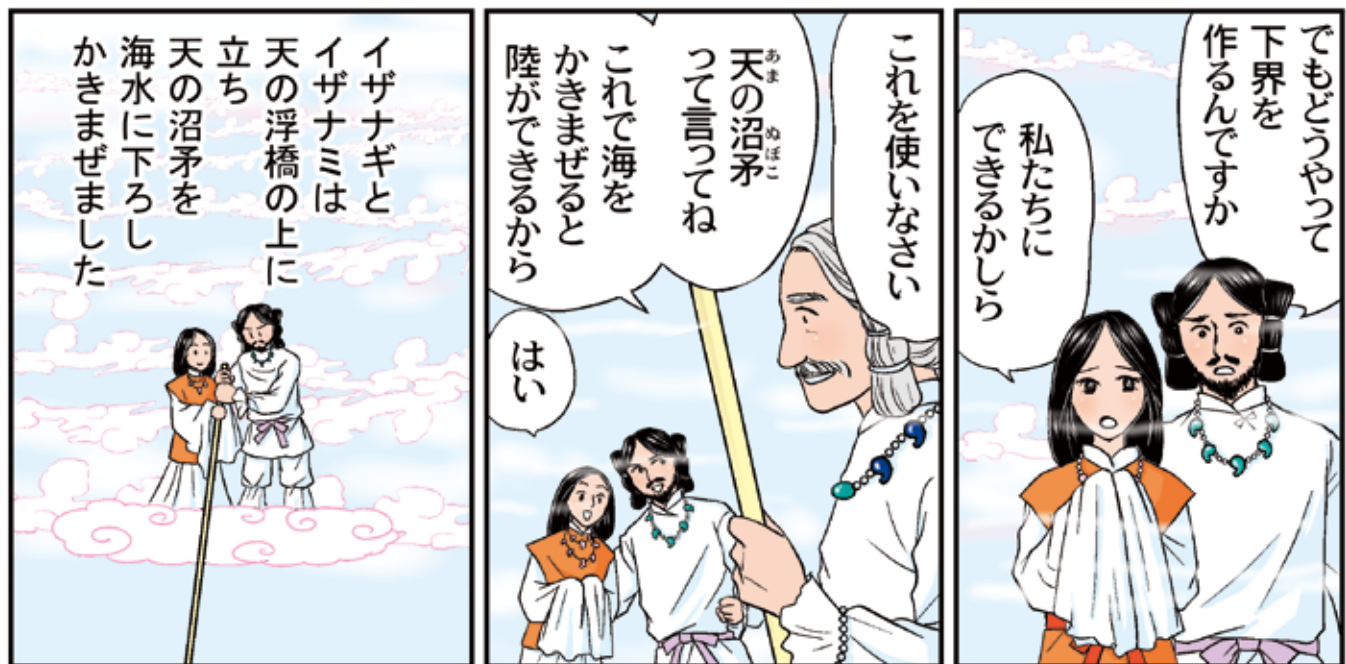
天地は混沌として
水に脂浮いて
いるような状態で

天にある
高天原に
最初の神さまが
現れました

最初に現れた五柱の神さまを 別天つ神と言います			
天之御中主命 タカミミナカヌシノミコト	高御産巢日神 タカムスヒノカミ	神産巢日神 カミムスヒノカミ	宇摩志阿耜陀古遲神 ウマシアサヒコヂノカミ
天之常立神 アメノコトナリノカミ	天之常立神 アメノコトナリノカミ	天之常立神 アメノコトナリノカミ	天之常立神 アメノコトナリノカミ
その後			
国常立命 クニトコタテノミコト	豊雲野神 トヨフモノカミ	宇比地邇神 ウシチニノカミ	角杵神 ツクシノカミ
活杵神 イクシノカミ	意富斗能地神 オホトノヂノカミ	大斗之弁神 オホタルノミコト	面足命 オモタリノミコト
阿夜訶志古泥神 アヤカシコネノカミ	伊弉諾命 イザナノミコト	伊弉册命 イザナミノミコト	伊弉册命 イザナミノミコト
という神さまが生まれました			

※神々の名前の漢字と読みは諸家村史より引用しました





これは
神話が作られた
当時は
東国を異国と考える
世界観があったためと
言われています

大陸から渡ってきた
文化の影響も
あったでしょう



しかし
最高の謎は
オノゴロ島の場所
です!!

オノゴロ島の候補地は

- 紀伊水道の沼島
- 紀淡海峡の友ヶ島の沖ノ島
- 播磨灘の西島
- 能古島
- 小呂島
- 屋久島
- 奈良県吉野地方を中心とする
紀伊半島山岳地帯

というものから



なんと!

江戸時代の国学の一説では
地球そのものが
オノゴロ島だという
説もあるんです!

ということとは
この諸塚が
宇宙の中心!?

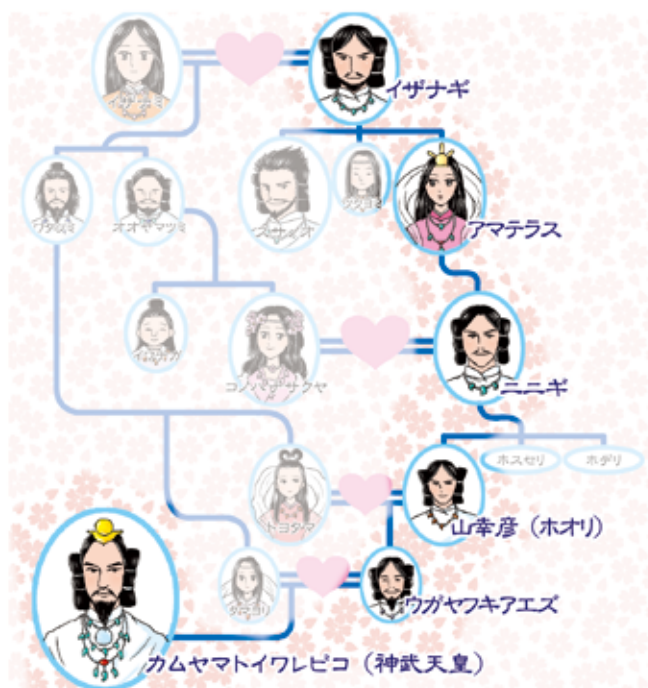
すごい



神様の名前を覚えよう

神話を読むとき、最大の障害は「名前がややこしい」ではないでしょうか。少なくとも私の場合は名前が覚えられなくて神話が好きになれませんでした。でも、いったん覚えてしまえばあとは楽！ 語呂合わせで簡単に覚えてみませんか？

まず一番重要な神様の系図はイザナギノミコトから神武天皇まで続く神様です。



神武天皇はカムヤマトイワレビコという別名もあり、それで覚えましょう。覚え方は簡単、次の文章です。

いざ！飴をにぎって山へ行き、うがいをして嘔む。

最初の「いぎ」はイザナギ、「飴」はアマテラス、「にぎ」はニニギ、「山」は山幸彦、「うが」はウガヤフキアエズ、「噛む」はカムヤマトイワレビコのことです。山幸彦の本名は古事記によるとホオリノミコトです。

古事記由来、日本書紀由来で名前の表記も変わりますが、ここで重要なのは生まれてきた順番ですから、山幸彦で覚えてください。この流れだけでも覚えると、今までなんとなく敬遠していた神話がスツと頭に入りやすくなりますからね！

次は結構マニアックな神様たちの覚え方
別天つ神5柱です。

雨の中、髪を結び、高菜のおむすびを食すると「美味し！」でも足がカビてひでー。と落ち込むけれど、雨の床から立ち上がる

「雨の中」はアメノミナカヌシ、「髪を結
び」はカミノムスヒノカミ、「高菜のおむす
び」はタカミムスヒノカミ、「美味し、足力
び、ひでー」がウマシアシカビヒコチノカミ、
「雨のどこから立ち上がる」はアメノトコタ
チノカミです。雨の中でおむすびを食べたり
足がカビて（臭い？）落ち込んだり、という
シーンを思い浮かべると覚えやすいでしょう。
でも、他にもっと覚えやすい語呂合わせが
あれば皆さんもぜひ考えてみてください。
自分だけの面白いダジャレを考えると、それ
だけでますます興味がわきますから！